

日比野克彦氏による陶板レリーフのパブリックアート

〈泡沫 utakata〉



2010年10月22日、ザ・キャピトルホテル 東急が東急キャピトルタワー内に新しくオープンします。古くは魯山人が開いた星岡茶寮があったこの地は、大都市東京の中心にありながら、日枝神社の豊かな緑地に隣接しており、伝統と現代性の出会う場所となっています。

その伝統と現代性の融合を現すパブリックアート〈泡沫 utakata〉が、東急キャピトルタワーの地下入口前(東京メトロ溜池山王駅5番出口付近)に設置されました。原画・監修を行った日比野克彦氏は、ダンボールで制作した原画の質感を恒久的で日本の伝統的素材である陶を用いて表現しました。現代的なデザインと、陶の豊かで落ち着いた肌触り、二つの異質なものの出会いが、この場を行き交う人々をつなぎます。



サイズ:陶板レリーフ W5,140×H800
全体 W8,400×H1,200
素材:陶板レリーフ
企画制作:東急電鉄
壁画制作:クレーレ熱海ゆがわら工房



設置場所

南北線溜池山王駅改札口
(5番出口方面)

パブリックアート設置箇所

山王パークタワー方面

東急キャピトルタワー

◆お問い合わせ先◆

株式会社NKB パブリックアート本部
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-3東京宝塚ビル
Tel:03-3504-2107 Fax:03-3504-2113
担当:山崎、石井 e-mail:y-yzaki@nkb.co.jp
URL: <http://createjp.com/>

日比野氏による制作風景



施釉中



造形打ち合わせ中



造形中



施釉中

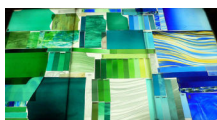
〈泡沫 utakata〉 作家の言葉

隈研吾がデザイン監修した東急キャピトルタワー（入居テナント ザ・キャピトルホテル 東急 他）は日本庭園が自慢であることから、そこへと繋がる、飛び石をイメージとした絵を描き、それを焼き物に。その絵を焼き物にする行程の中で今回ちょっとこだわったというか、遊んだ部分がひとつある。それは絵を描いたベースが段ボールであるので、その段ボールの表情も焼き物に出来ないかというたくらみであった。工房のスタッフといろいろ話して、段ボールのエッジとか、逆に柔らかい部分とか、小口のナミナミの部分とかを土で再現して、やってみることに。粘土の段階では重いかんじであったが、絵付けて焼いてみたら、これがうまいこと段ボールの質感をだしながら焼き物の風合いが出た作品となった。（日比野克彦 日々の新聞

http://www.hibinoshinbun.com/files/hibino/day_after_tomorrow/90.html より)

◇(株)NKBのパブリックアート事業について

当社では駅などのパブリックスペース（公共空間）をより豊かなものにするため、スタンドグラスや陶板レリーフなどのパブリックアートの制作を行ってきました。これまでに制作した作品数は全国で約500点にもなります。原画・監修を行うのは、平山郁夫、澄川喜一、絹谷幸二など日本を代表する一流の作家たちです。世界でも最高峰の材料を用いて制作されるパブリックアートは、永遠に色褪せることなく、公共空間に潤いを与え社会のより良い環境づくりに貢献しています。



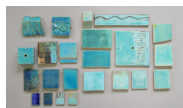
アンティークグラス



アンティークグラス色見本



釉薬見本 ピンク



釉薬見本 トルコブルー



釉薬見本 黄色



釉薬見本 赤



制作を行うクアレー熱海ゆがわら工房